

YAMANE'S CONSTRUCTION SITE

施工物件



Kホーム本社ビル新築工事
 現地▶川崎市川崎区小川町
 構造▶RC造
 階数▶地上12階
 用途▶事務所、店舗(物販)、共同住宅
 戸数▶11戸



N様邸新築工事
 現地▶東京都中野区中央
 構造▶木造
 階数▶地上2階
 用途▶住宅
 戸数▶1戸



高津小学校校舎増築その他工事
 現地▶川崎市高津区溝口
 構造▶RC造
 階数▶地上3階他、(校舎増築工事)
 用途▶小学校



幸区大宮町Fビル計画新築工事
 現地▶川崎市幸区大宮町
 構造▶RC造
 階数▶地上12階
 用途▶店舗(物販)、共同住宅
 戸数▶44戸



(仮称)川崎市幸区北加瀬1丁目計画
 現地▶川崎市幸区北加瀬
 構造▶RC造 階数▶地上7階
 用途▶共同住宅 戸数▶26戸

東海道川崎宿

～縁をつなぐ道の宿～



ホテル縁道
 現地▶川崎市川崎区宮本町
 構造▶RC造 階数▶地上11階
 用途▶飲食店・ホテル
 戸数▶167室



発行者: 株式会社 **山根工務店**

ヤマネノシゴトグループ

建設業許可番号/神奈川県知事許可(特-29)第6883号
 〒210-0001 神奈川県川崎市川崎区本町2丁目7番地1
 TEL:044-244-4829 FAX:044-244-4815

■ e-mail:info@yamane-koumuten.co.jp
 ■ http://www.yamane-koumuten.co.jp

発行日:2020.10.1



ヤマネノシゴト

2020 ホテル縁道特集 vol.49



★目次★



- 2P ヤマネノシゴトグループ初のホテル事業スタート!!
- 4P ヤマネくんがいく!!(縁道食堂)
- 5P ホテル縁道開業までの道のり

- 6P 若手社員 A の仕事
- 7P ヤマネくんのご近所探索(川崎河港水門)
- 8P 施工中物件(ホテル縁道概要)

ヤマネノシゴトグループ

ヤマネノシゴト
グループ

初のホテル事業スタート!!



この8月13日より、川崎区宮本町にヤマネノシゴトグループで初となる「ホテル縁道」をオープンさせて頂きました。

この事業は土地の取得から建物の建築、オープン後の建物管理、ホテル、レストランの経営までをヤマネノシゴトグループで一貫して行う新規事業として2015年から計画をスタートさせ、5年の期間を経てオープンの運びとなりました。



ホテルのお部屋は全部で167室となっております。
1階はホテルフロントとレストランとなっており、2階から11階までがホテル客室となっております。

11階と10階のフロアはコンセプトフロアとなっており、各部屋のタイプにより川崎宿を構成していた新宿（しんしゅく）・砂子（いさご）・久根崎（くねざき）・小土呂（ことろ）の4つの村名と川崎市民花であるつつじ・椿（つばき）、稲毛神社の神木である銀杏（いちょう）の7つのタイプのお部屋をご用意しております。



部屋の大きさは13㎡のセミダブルルームから40㎡超のお部屋まで幅広いプランを取り揃えております。

通常フロアは一般的なビジネスホテルの仕様となっており、コンセプトフロアについては「和」をイメージした畳調の床材を使用しコンセプトにマッチした仕上がりとなっております。

川崎市民の方々には特別プランもご用意しております。コロナの影響により遠出ができないという方にぜひ一度ご利用いただきたいと思っております。

ここでホテル支配人の株式会社リットアップ代表取締役 吉岡明治さんにお話をお伺いしたいと思います。

Q : ご経歴を教えてください。

吉岡 : 新卒で藤田観光という会社でワシントンホテルのフロント、レストラン、バーテンダー、その後本部で開発と運営管理を担当しておりました。直近はUDS株式会社(小田急電鉄グループ)でホテルの開発と運営、まちづくりにかかわる仕事をしておりました。

Q : このホテルに携わることとなった経緯はどのようなものですか?

吉岡 : 5年前にオンザマークス川崎というホテルの開発を担当し、1年目は支配人もさせて頂いており、地元営業をしていた中で、かわさき未来塾という組織を御紹介いただき、そこで山根社長とご縁を頂きました。未来塾は川崎を盛り上げていく事が目標でしたから、山根社長からホテル計画の開発プロデュースと運営のご相談をいただいた時はホテルを通して川崎の観光をご一緒に盛り上げたいと思い「やります!」と即答したのを覚えています。

Q : ホテル開業に向けて苦労したことは何でしょうか?

吉岡 : やはりコロナの影響が大きかったです。開業が遅れたことと当初採用人員の半分でのオペレーション構築が難しかったです。しかし決まっていた採用メンバーについては予定通りご承認いただいたことは感謝できません。またピンチはチャンスというように、厳しい環境、少ない人数でどう運営をおこなうかと現在も考えている経験は、今後必ず役に立つはずなので、チームでアイデアを出し合いながら、しっかり稼働を上げてメンバー増員が必要なくらい売上を増やししっかり利益を出せるようにしたいと考えております。

Q : ホテル運営を実施していく意気込みをお願いします。

吉岡 : ライフスタイルホテルという言葉が業界で流行し、いかに地域性をホテルで出していくかという傾向がホテル業界にあります。118年の歴史をもつ山根工務店様の地域とのつながり「ご縁」は他ホテルには無い最大の強みです。我々運営チームはもっと川崎のことを勉強させていただき、川崎の魅力をお客様に発信したいと考えております。ホテル縁道が出来たから「川崎市民の方の楽しみが増えた」「東京より川崎が面白い」と話題になり川崎の観光客が増えた「地域のお店もお客様が増えて縁道に感謝」と言われるような結果を出せる

ように運営チーム一丸となって邁進してまいりますので引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。またこの場を借りて、いつもご利用頂き感謝申し上げます。





ヤマネくんが行く!!!



今回のランチは、ホテル「縁道(えんみち)」内にある縁道食堂に行ってみます。

縁道は山根工務店が施工したホテルで、現在建設が進んでいる川崎市役所新庁舎の目の前にあります。※ホテル縁道の詳細はP2. P3. P5の記事を参照

ヤマネくんは縁道に試泊をしたことがありますが、とても快適で居心地の良いホテルでした。縁道食堂は今回が初めてなので、とても楽しみです!

ということで到着しました。これが縁道の入り口です。

金色の看板がカッコいいですね! 東海道、川崎宿とあります。イチヨウの模様が川崎っぽく可愛らしいですね。



縁道に入ると開店祝いの花がたくさん。とても華やかな雰囲気

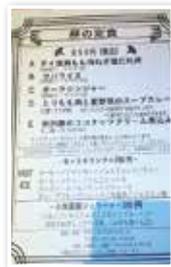
でした。こちらが縁道食堂です。明るくてすっきりとした印象の食堂。木のテーブルが温かみがあっていいですね。テーブル席は4人用と2人用がありました。



窓際は座敷席です。大きな窓ガラスに丸いちゃぶ台。なかなか落ち着いたような雰囲気です。天気の良い日は気持ちが良いでしょうね。

こちらが本日のランチメニューです。

こちらが本日のランチメニューです。



どれも美味しそうですが、「とりもも肉と夏野菜のスープカレー」を注文してみます。ヤマネくんはカレーが大好きなのです。

ちなみに、ご飯の大盛りは無料でした。



こちらはコースター。

先ほどの入り口看板では気が付きませんでした、トンボの模様も入っているのですね。ますますかわいい!

まずはサラダから登場しました。

ドレッシングは最初からかかっています。



そしてこちらが、とりもも肉と夏野菜のスープカレーです。

熱々の状態で提供されるスープカレー。

美味しそうですね! スパイシーな香りが食欲をそそります。

これは何系のカレーで

しょうか? 詳しくはわかりませんでしたが、どこかの国の本格カレーではないでしょうか。カレー好きのヤマネくんを唸らせる味でした。

大きい鶏肉やゴーヤがゴロゴロで、食べごたえも満点ごちそうさまでした。明日はパークジンジャーを食べてみます(笑)



【ホテル縁道 縁道食堂】

川崎市川崎区宮本町2-25

ヤマネ / 建物管理

ホテル縁道開業までの道のり

埼玉在住のFです。今回はヤマネのシゴトグループでの初めての事業であるホテル事業について記事にさせていただきます。表の華やかなものと異なり、建物管理は裏方の仕事で、特に設備関係で不具合があると宿泊され方にご迷惑をかけるほか、ホテルの評判を落とすことになります。開業までもそうですが、開業後からが真の建物管理。多岐にわたる協力会社の方と協力し川崎に根付いた評判の良いホテルになるように今後も努力していきます。皆様もホテル縁道を宜しくお願い致します。



ホテルに欠かせない仕事 ベッドメイキング



出張や旅行でホテルに泊まるとシワの無い綺麗に作られたベッドが目にと留まると思います。ホテル縁道では一番重要なルームメイキングをして頂ける協力会社の選定から入りました。コロナが騒がれる前で、オリンピックに向けてホテルの建築ラッシュの中、昨年の8月の段階（開業約1年前）に協力会社がすでに決定していました。その協力会社のホテルを何度か見学し、早い段階で意思の疎通が取れたのは管理側にとって大変助かりました。ホテル縁道は全客室

シーツはそのまま 問題ありません

旅館やホテルに宿泊した後、布団をたたむかシーツを剥がすかどうかで悩んだことはありませんか。メイクをする側はそのままにして頂いていた方が作業がしやすいので、シーツ等は剥がさなくても問題ありません。逆に剥がされて一つにまとめられているとメイドさんが一つ一つ仕分けをする作業が入ってしまいます。また、ホテルで一番多いのが巻き込み事故で、お客様の服等がシーツにくるまってリネン会社で発見されるという事故です。この事故を防止することと、

数で167室あり、全ての部屋をメイクするのに何人位のメイドさんが作業をしてるか想像がつかますか。答えは、1日当り13名のメイドさんで全てのお部屋を整備しています。1人12部屋を作る計算です。なかなかメイドさんの仕事内容がわかりにくいと思いますが、大まかな流れは下記のとおりです。

- ①前泊者の忘れ物確認
 - ②前泊者の使用したシーツ類を取り外す
 - ③お風呂、トイレ、水回りの清掃を行う
 - ④アメニティー類の補充
 - ⑤机、ヘッドボード等の平滑面の拭上げ
 - ⑥ベッドメイク
 - ⑦ごみの回収
 - ⑧床面の掃除機掛け
 - ⑨責任者のルームチェック
 - ⑩フロント報告
- という流れになっています。25分位で1部屋を作る計算です。

また、ホテル縁道には22タイプの部屋があり、ベッドのサイズも異なるため、そのタイプに応じたメイクが必要で、開業までの時間は部屋タイプ別の統一マニュアルを作成するのが重要な仕事になります。これも、協力会社の方と協力し引き渡し完了した2日後には出来上がり、メイドさんのトレーニングに右往左往することなく、初めから本格的なトレーニングを行うことが出来ました。

リネン屋さんとの取り決めで、枕カバー、掛け布団カバー、シーツ等は全て別にして回収するという仕組みになっているので今後宿泊される際は気にせずそのままの状態でもチェックアウトして下さい。



株式会社 ヤマネ総合サービス

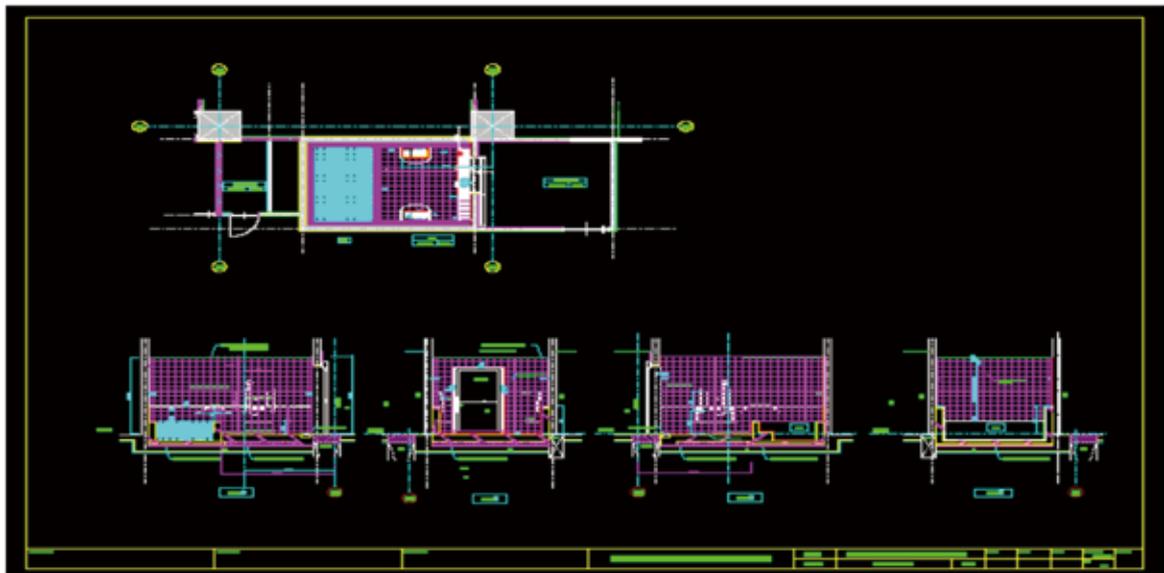
FAX 044-221-5078
PHONE 044-221-5077
川崎市川崎区本町 2-7-1 〒210-0001

若手 A 社員のシゴト



今回は、現場監督 3 年目の私の仕事を少しご紹介したいと思います。

この図面はタイル割付け図面です。お客様と打ち合わせを重ねてサイズ、色等を決めたタイルをこちらで予め割り付けて検討を行い職人さん達に割付図面として渡して実際に施工という流れになります。



今回こちらはタイル割付け図面になりますが、外壁等にタイルを使用する際もこの作業を行います。タイルを割り付ける際、上下左右均等なサイズで割り付ける様に行います。その方が見栄えがグッと綺麗に見えます。ただその際、障害となるのが窓、シャワー等の水栓です。これらを固定する為の器具や金物がタイルの目地の位置にないと取付られず固定できないので、上手く工夫して割り付けています。ですので、ご家庭にタイル仕上げになっている箇所がありましたら、割り付けに着目してみると面白いかもしれません。





ヤマネくんのご近所探索

川崎河港水門

川崎近郊の観光スポットを紹介する新コーナー「ヤマネくんのご近所探索」今回は、「川崎河港水門」をご紹介します。



解説

大正時代末期、川崎市は物資の輸送をより円滑にするため、古来より水運に利用してきた多摩川の堤防の一角から内陸部に運河を開通させ開鑿による土砂で両岸を埋め立てて工場や住宅地とするという大規模な運河・港湾計画をたてた。第一次世界大戦による好景気の中、商工業用地の拡大と効率的な運輸の実現を図り川崎市のさらなる発展を図ろうとの期待が込められた一代計画であった。

川崎河港水門はこの運河計画の一環として当時の多摩川改修事務所長であった内務省土木技師 金森誠之（かなもり しげゆき）により設計されたもので大正15年（1926年）11月に着工、当時の予算で54万円の費用と1年半の歳月をかけて昭和3年（1928年）3月に完成した。この水門は二つの塔とそれをつなぐ梁、そしてゲートによって構成されている。渦巻き模様と飾り窓のついた塔の上には、当時の川崎の名産であった梨、桃、葡萄をモチーフした巨大な彫刻が配されている。梨については有名な「長十郎」が生まれたのは水門からほど近い出来野であり、明治以来外国産の桃を栽培するようになったのは大師河原が日本で最初であった。また近隣では葡萄の栽培も行われていた。塔の側面には川崎市で最初であった。また近隣では葡萄の栽培も行われていた。塔の側面には川崎市の現在は見る事が出来ないが完成当初は梁の側面にエジプト様式の舟がリレーフ状に描かれていた。設計者金森氏の手記によると、これらの装飾部分は建築家の久留という人物が技を振ったもので「川崎に因んでその頭部への飾りを工夫」するなどして「土木屋の手には出来ない芸術的な仕上げ」となっている。

運河計画は、その後現在の川崎区を対角線に横切る3筋の大計画となり昭和10年（1935）に運河幅員33～40mの都市計画事業として内務省の許可を得たが当時は運河に対する建築制限が道路と異なり薄かった

ため、予定地に工場や住宅が次々と建設されていった。満州事変、日中戦争の勃発による軍需産業を中心とした好景のもと工場増加の傾向は顕著であった。また第二次世界大戦の開戦により戦時体制はさらに強化され当時の社会状況、国益に合わなくなった運河計画は、9年後の昭和18年（1943）に廃止となった。運河は水門から220m開鑿されただけで中断してしまい現在では埋め立てられて水門に接続される分節約80mが舟溜まりとして残存するのみである。

しかしこの河港水門は、現在でも主として千葉方面からの砂利の陸揚げ施設として、1日数隻の砂利運搬船の出入りに利用されている。

多摩川のほとりに工場群を背にして堂々とそびえる川崎河港水門は、幻の大運河計画の存在を物語る希少な歴史的遺産として、またその優れた意匠から、多摩川河畔の景観に欠かせないシンボルとして市民に親しまれている。

川崎市 教育委員会生涯学習部文化財課



建築年代	昭和3年（1928年）
規模	高さ 20.3m 水門幅 10.0m
構造形式	鉄筋コンクリート造（鉄筋煉瓦を併用）
所有者	川崎市
所在地	川崎市川崎区港町66地先
指定	国登録有形文化財 平成10年9月29日登録